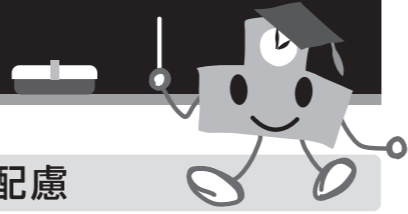


小学校の事例 厚別区 厚別東小学校

エコをテーマに行事を開催。学年間の交流を深めるとともに収集活動の意欲向上にもつながる取組。

児童会が中心となり、リングプルやペットボトルキャップを収集。年1回の行事にもエコを取り入れることで、自分のできることを考える意識が芽生え、環境への意識が深まる。



内容 日常的に収集活動を行い 行事でも環境に配慮

本校では、児童会が中心になり、さまざまなエコ活動に取り組んでいる。

年間を通して、リングプルとペットボトルキャップの収集を行っている。リングプルは、玄関に箱を置いて集めており、平成21年度に車いすと交換することができた。ペットボトルキャップの収集は、平成21年度の6年生児童が個人的に集めていた活動をきっかけに、学校全体で取組むようになった。

児童会の行事としては、年に1回「こどもフェスティバル」を行っている。リングプルやペットボトルキャップの収集に意欲的に取組むために、昨年度からはエコをテーマに開催。3～6年生がクラスごとにゲームやお化け屋敷、ペットボトルを使ったボウリングのお店などを作り、1、2年生がお客として楽しむ。使用するお金はリングプルやペットボトルキャップである。どのように実施すれば環境に優しい形でできるかをみんなでアイデアを出し合い取組んだ。

その後、生活科の時間を利用して「ミニ子どもフェスティバル」を開催。1年生は1、2学期にお世話になったお礼を兼ねた「フェスティバルご招待」の手紙を6年生に渡し、生活科で集めたドングリを使ったゲームで交流した。2年生は、中・高学年の「子どもフェスティバル」を参考にして1年生に喜んでもらえるようなゲームを用意し、1年生を招待した。

本校では、開校以来の伝統として学年間の交流が盛んで、遠足や清掃活動なども、1年生から6年生でグループを作り、他学年との交流を深めながら行っている。地球全体の問題である「環境問題」をテーマに交流を行うことで、学校全体に「エコ」意識が高まっている。



交換までの数量を表示



リングプル回収BOX

効果 環境に対する意識が高まり 自ら考え行動

児童会のエコ活動をとおして、環境に対して自分たちができることは何かを常に考えるようになっている。

また、他学年と一緒に行動することで、上級生には先輩としての自覚も生まれ、下級生には先輩の行動をみて、「自分たちもよいことをやってみよう」という気持ちが芽生えている。この開校以来の伝統をこれからも受け継いでいきたいと思っている。



エコキャップ回収の様子

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

子どもの自発性を高めるために、子供たちが自分たちで何ができるかを考えることが大切です。教師がヒントを与えることで子どもに生まれたアイデアを見逃さず、活かしていく必要があります。子供たちへの考えるヒントとなる情報に、どのようなものがあるのかをもっと知りたいと感じています。